指神経内に発生した脂肪線維腫の経験

大分医科大学整形外科教室

内 田 和 宏・麻 生 邦 一
内 田 仁・渡 辺 寧
城 日出徳・真 角 昭 吾

A Case of Intraneural Lipofibroma of the Digital Nerve

by

Kazuhiro Uchida, Kuniichi Ahsoh, Hitoshi Uchida,
Yasushi Watanabe, Hidenori Jou and Shougo MasumiDepartment of Orthopaedic Surgery,
Medical college of Oita, Oita, Japan.

A case of intraneural lipofibroma of the digital nerve is described. The patient was a twenty-three-year-old male who had noticed a soft mass in his right palm and middle finger one month ago. The mass increased in size, but he was asymptomatic and there was no loss of function. At surgery, enlarged sausage-shaped, gray-yellow digital nerve was found. Total resection of the mass was impossible because it surrounded the funiculus. Partial resection of the mass was done. Microscopically, the mass consists of fibrofatty tissue that has surrounded and infiltrated nerve trunk and has grown along the epineurium and perineurium.

はじめに

神経内脂肪線維腫は末梢神経に稀に発生する良性腫瘍で、末梢神経内に限局して成熟脂肪細胞と線維組織が増殖したものである。今回われわれは、総掌側指神経より中、環指の固有指神経にまたがって発生した脂肪線維腫を経験したので報告する。

症 例

症例：23才，男性。

主訴：右手掌および中指の腫瘍。

家族歴，既往歴：特記すべきことなし。

現病歴：平成元年9月右中指掌側の腫瘍に初めて気

づき，徐々に増大してきたため10月当科受診。

血液，生化学的検査：特記すべきことなし。

初診時所見：右手掌部より中指にかけ，弾性軟，境界不明瞭な無痛性の腫瘍を触知した。神経症状は認めなかった。

平成元年11月手術施行。

手術時所見：総掌側指神経から中，環指の固有指神経をとり囲んだ黄色の柔らかい腫瘍を認めた。腫瘍のみの摘出を試みたが，神経との分離は不可能であったため，指神経幹を温存して，可及的に切除した。切除した腫瘍は $2 \times 2 \times 7$ cmのソーセージ様で黄白色均一充実性のものであった。(図1, 2)

病理組織所見：成熟した脂肪細胞の集簇がみられ，

図1 手術時所見
指神経をとり囲んだ黄色の柔らかい腫瘍を認める。

図2 切除標本
2×2×7 cm, ソーセージ様, 黄白色均一, 充実性の腫瘍である。

神経線維と平行に走る線維組織よりなっていた。神経線維は神経周膜の線維性増生を認め、神経内脂肪線維腫と診断した。(図3)

術後は中、環指に軽度の知覚鈍麻を認めたが、経過とともに回復してきている。

図3A 病理組織所見
神経束をとり囲んで成熟脂肪細胞と線維組織が増殖している。

図3B 神経束周囲の線維性増殖をみとめる。

考 察

1952年 Mason⁹⁾ が末梢神経内に成熟した脂肪細胞及び線維組織の増殖を初めて報告しているが、その後 intraneural fibrolipoma, lipofibroma⁵⁾¹²⁾, fibrofatty proliferation²⁾, lipomatous hamartoma³⁾ などさまざまな名称での報告がある。病因は腫瘍説、過誤腫説もしくは単に脂肪組織の増殖とする説²⁾ とに大別されるが、未だ結論は得られていない。また macrodactyly に伴った例もみられ、Silverman ら¹⁴⁾ は26例中7例に、Amadio ら¹⁾ は18例中12例に macrodactyly の合併を報告している。

われわれがこれまでに渉猟し得た症例は78例であり、自験例を含め検討すると、発症年齢は若年者が多く、生下時に認められることもある。Silverman¹⁴⁾ は26例中10例は生下時もしくは2才前に大きくなったものであると報告している。発生部位の大半は上肢であ

り、手関節付近より末梢の正中神経に多い。臨床症状及び所見としては、徐々に増大する柔らかい腫瘤を触知し、病状が進行すれば、知覚障害、運動障害を起こすことがある。鑑別疾患は、intra-neural lipoma, neurofibromatosis, Dejerine-Sottas 病などがあげられるが、確定診断には生検が必要である。病理組織所見として、神経内に線維脂肪組織が浸潤し、神経外膜、神経周膜の線維性増殖がみられることが特徴的である。神経内に浸潤しているため神経を温存して腫瘍の全摘出は不可能であり、治療法は神経の除圧のみにとどめる方法⁴⁾⁷⁾¹⁵⁾と切除もしくは切除後神経移植を行う方法¹¹⁾があるが、未だ確立されていない。

Louis ら⁸⁾は腫瘍切除後、平均 11 年の長期経過観察の 4 例において神経症状の悪化を認め、この疾患に対する治療の難しさを述べている。本症は、術前神経症状がみとめられなかったため、神経幹の温存を重視し、可及的な切除にとどめた。術後 1 年では経過は良好であるが今後長期間の観察が必要である。

ま と め

- 1) 指神経内に発生した脂肪線維腫の一例を経験した。
- 2) 治療は指神経幹を残して可及的に腫瘍を切除した。
- 3) 病名および治療法につき考察した。

参 考 文 献

- 1) Amadio, P.C. et al.: Lipofibromatous hamartoma of nerve. J. Hand Surg., 13-A: 67-75, 1988.
- 2) Callison, J.R. et al.: Fibrofatty proliferation of the median nerve. Plast. Reconst. Surg., 42: 403-413,

- 1968.
- 3) Emmett, A. J.: Lipomatous hamartoma of the median nerve in the palm. Br. J. Plast. Surg., 18: 208-213.
- 4) Houpt, P. et al.: Intra-neural lipofibroma of the median nerve. J. Hand Surg., 14 A: 706-709, 1989.
- 5) Jacob, R. A. et al.: Lipofibroma of superficial branch of the radial nerve. J. Hand Surg., 14-A: 704-706, 1989.
- 6) 加藤貞文・他: 左肘関節部の正中神経内に発生した繊維脂肪腫の一例。東北整災紀要, 32: 161-163, 1988.
- 7) Langa, V. et al.: Lipofibroma of the median nerve: A report of two cases. J. Hand Surg., 12-B: 221-223, 1987.
- 8) Louis, D. S. et al.: Lipofibromas of the median nerve: Longterm follow-up of four cases. J. Hand Surg., 10-A: 403-408, 1985.
- 9) Mason, M. L.: Presentation of cases. In proceeding of American society surgery of the hand. J. Bone Joint Surg., 35-A: 273-274, 1953.
- 10) 大越康充・他: Guyon 管症候群を呈した intra-neural lipofibroma の一例。日形会誌, 6: 179-184, 1986.
- 11) Paletta, F. X. and Senay, L. C.: Lipofibromatous hamartoma of median nerve and ulnar nerve: Surgical treatment. Plast. Reconstr. Surg., 68: 915-921, 1981.
- 12) Rowland, S. A.: Case report: Ten year follow-up of lipofibroma of the median nerve in the palm. J. Hand Surg., 2: 316-317, 1977.
- 13) 佐久間克彦・他: 正中神経内脂肪腫の一症例。整形外科と災害外科 37: 841-844, 1988.
- 14) Silverman, T. A. and Enzinger, F. M.: Fibrolipomatous hamartoma of nerve. Am. J. Surg. Pathol., 9: 7-14, 1985.
- 15) Sondergaard, G. and Mikkelsen, S.: Fibrolipomatous hamartoma of the median nerve. J. Hand Surg., 12-B: 224-226, 1987.